

(2) 整備主要単位 1～8 の整備状況

ケーススタディで紹介した整備主要単位9を除く、整備主要単位1～8の整備状況を見ていく。

特務機関が整備に取り組んだ期間は約15年間であり、この間に300kmという広範な沿岸地域で平行して整備を実施していった。したがって整備主要単位ごとの進捗状況には差が生じている。（たとえば、最初に紹介する整備主要単位1内のル・ヴェルドンは、本格的な整備は開始されておらず、また整備主要単位8のミミザンは伝統的沿岸観光地の高価値化の計画が導入されたばかりである。）

以下は、アキテーヌ沿岸地域整備の初期段階において行政側（特務機関）が実施した各整備主要単位の整備の方向づけの概要を跡付けたものである。

整備主要単位1：ル・ヴェルドン、スラック（巻末地図1参照）

この整備主要単位は、アキテーヌ沿岸地域の北端に位置し、スラックとル・ヴェルドンの2つの整備拠点を有するが、ル・ヴェルドンは現在、整備の準備段階として社会資本整備に取り組んでおり、本格的な整備は今後に待たれている。

スラックにおいては、多くの重要な施設が、特務機関による、1972年から1982年間の1,250万フランの財政的援助により建設された。

これらの財政的援助は、特に次のような施設に振り分けられた。すなわち、道路網、スラックの下水処理施設を含む下水道、上水道、12面のテニス・センター、515人の宿泊者収容力のあるバカンス村の改修である。

海洋のウォーター・フロントの再整備に関する調査は、1987年に取り組まれはじめた伝統的沿岸観光拠点の高価値化の計画に活かされた。（※（3）伝統的沿岸観光地の高価値化、スラックの部分参照）

ル・ヴェルドンにおいて本格的な整備はまだこれからであるが、沿岸地域整備の大綱において計画された事業は、次の2つの目的を持っていた。

- アキテーヌ沿岸地域の観光開発にメドック岬地方を組み入れる。（この目的は、ル・ヴェルドン港周辺の工業地区整備があまり順調でないだけに、今日より多くの価値を持つことになった。）
- この地域の経済的な脆弱性を克服するために、レジャー用港を兼ね備えた大西洋に面した新たな港を整備する。ル・ヴェルドンは、この見地からすると、大西洋に直接アクセスでき、しかもジロンド河の河口に航行できる可能性から、類い希な立地条件にある。

ル・ヴェルドンの整備は、大綱に盛り込まれたもののうちまだ取り組まれていない最後の大規模な事業と言うことができる。

先行する調査は、450艘分の外洋に開けたレジャー用港の建設とこの港の周囲に宿泊施設を集積させる地区の建設を提示している。なお、このレジャー用港は将来は800艘分の停泊地を提供することができるとされている。また計画された宿泊施設用地区(45ha)の大部分の土地の所有者は、ル・ヴェルドンのコミューン自体である。

先行する調査において取り上げられた整備の主要な事業は以下のとおりである。

- 魅力のある景観を保存し、整備することによる付加価値化。
- レジャー用港の建設を伴う整備事業。
- 5千から6千オーダーの観光客用宿泊施設側のニーズに応えること。
- 1,000ベッド程度の通年で利用できる宿泊施設の整備。
- 市街地にふさわしい公共施設の整備。
- 観光客向けの必要なサービス網の構築

これらの事業の実質的な開始を待ちながらも、特務機関はすでに殊に将来の整備区域のために上水供給と下水道の分野において事業に取り掛かっているほか、ル・ヴェルドン岬において公共スペースの確保を始めている。

整備主要単位2：ウルタン、ノジャック（巻末地図1参照）

整備主要単位2の観光整備は、以下の観光拠点を含んでいる。

- ノジャックから沿岸のパン・セックにかけてのキャンプ場と簡易宿泊施設（次々頁写真参照）の整備地域。
- ウルタンからウルタン・プラージュ、内陸湖岸西岸のピッケロ、内陸湖岸東岸のウルタンの市街地に近いウルタン・ポーの3つの観光整備地域

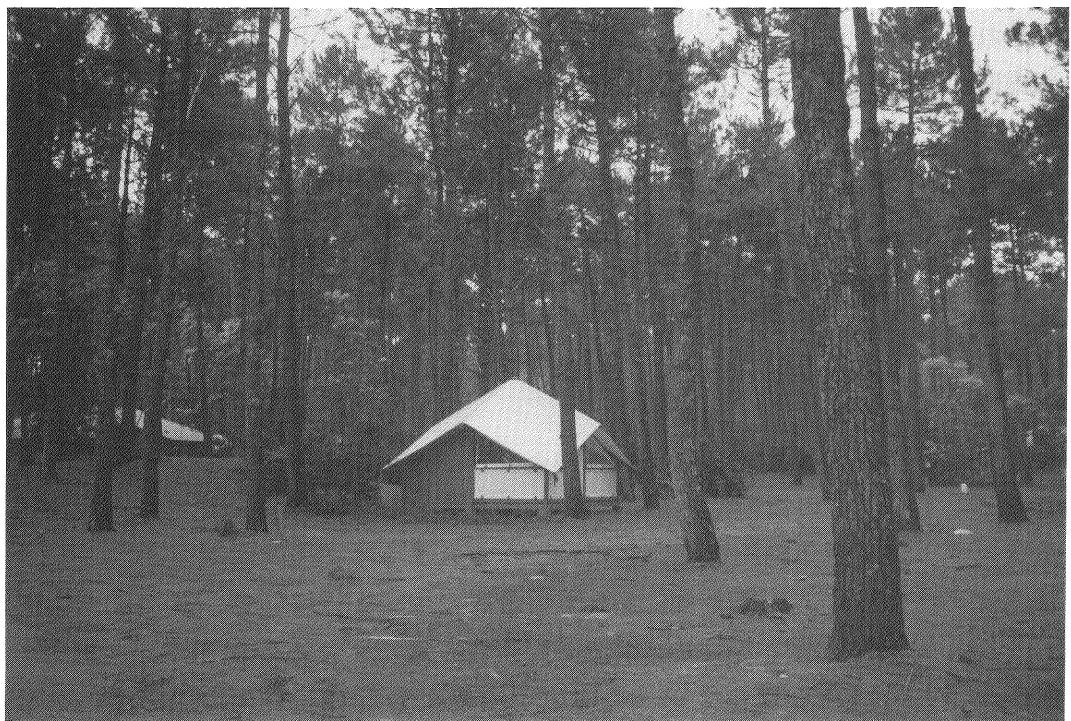
ウルタン・ポーで現在実施されている事業は、2kmに及ぶウルタンカルカンとウルタン市街地の間、55haの区域で着工されており、その宿泊許容量は、54,000m²の総床面積に約5,000ベッド（うち2,400ベッドが整備済み）が設置される予定である。特に強調されるべきは、区域の70%が公共施設（レジャー用港、水浴場、幼児・子供の遊び場など）に確保されていることである。

アキテーヌ州余暇・観光協会(Association pour les Loisirs et Tourisme en Aquitaine)によって先導された事業の企画は、宿泊施設の75%を中間所得者向けに予定しており、将来の観光拠点のために考慮されるテーマとして次の2つをあげている。

- 幼児と子供
- 水上スポーツ特にヨットセーリング

事業が実施される土地は、沼地の地域であった。このため1983年6月に着手された第一期工事は、敷地の一部を盛土し、レジャー用港（次頁写真①）、進入水路、内陸湖の水浴場を浚渫し、子供達のために内陸湖に島（丸太で簡易な建築物を整備するなどして子供が自由に遊べるようにしてある。次頁写真②）を造成し、この島を保護す





写真：簡易宿泊施設(habitat léger)。これは木材とビニールテントを使用したものであるが、他に様々なタイプがある。

るため湖の岸に沿ってさらにもう一つの島（前々頁写真③）を造成した。

公共施設の工事施工は、ジロンド県とウルタンが5割ずつを出資した混成事務組合によりなされた。

特務機関による投資額は、1988年末時点では3,200万フランに上っており、事業費総額は6,400万フランとなっている。

この整備主要単位における事業は現在着々と進行中である。

港を浚渫した土によって6haの子供の島を造成する事業は終了した。植栽の大部分、殊に水生植物の植栽は、既に実施された。

整備主要単位3：カルカン、ラカノ（巻末地図1参照）

カルカンの観光整備は、大西洋岸のカルカン・プラージュとウルタン＝カルカン内陸湖畔のモビュイッソンの街の間に展開した。1969年に建設されたボンバンヌのジロンド県立スポーツ・余暇施設群は、スポーツとカルチャーのための最初の核を形成したが、整備事業の実施により充実強化されている。なおモビュイッソンには、アール・エ・ヴィ（芸術と生活）という名称の創造的な休暇を過ごすためのヴァカンス村もある。

整備事業は、大西洋とウルタン＝カルカン内陸湖の間の松林内の137haの敷地に6,600ベッド（うち6,000ベッドが整備済み）の観光施設群を建設することを含んでいる。宿泊施設の大部分（3,800ベッド）は大衆向けであり、ボンバンヌのジロンド県立スポーツ・余暇施設群と連携しスポーツを楽しむことを目的とした観光拠点としての使命を持っている。

ラカノの事業（アルディルーズ協議整備区域）は、ラカノの観光拠点の全体的な整備の一部をなしている。

大西洋とラカノ内陸湖間の主に松林内で実施されたこの整備は、観光開発の核であるラカノ・オセアンにより形成された活動の拠点とラカノ内陸湖畔のムチックのポート停泊地を中心している。

この事業は、主要な二つの地区に建築された総床面積253,000m²に相当する約22,000ベッド（うち9,000ベッドが整備済み）の収容力を持つ観光施設群の整備を含んでいる。

主要な二つの地区とは、

- － ラカノ・オセアンの市街地に統合された沿岸部地域
- － 松林内のラカノ・オセアンの東部の400haに広がる内陸部地域、ことに今後27ホールに拡張される18ホールのゴルフ場周辺の人家が連なる地域。

整備主要単位 4～6：アルカッショング周辺（巻末地図2参照）

アルカッショング周辺の整備大綱は3つの目的を有していた。

- 湾岸部の都市計画に関して、湾に沿った線状の開発を制限する。
- この整備単位において大きな欠点となっているあらゆる種類の施設計画に取り組む。
- 大衆向けないし社会的性格を有する宿泊施設に限定した観光事業を実施し、従来ボルドーに近いこの地域で従来から際立っていた別荘の分譲という伝統的な開発に対位する。

第一の目的は次のように言い換えられる。

- 規制措置：既存の市街地の間の緩衝緑地(coupures vertes)の考え方を活かした都市計画文書（都市整備基本計画、土地占有計画）の策定、マンボーグのマリーナのような無秩序な計画に反対すること、1980年のジロンド県における主任建築・都市計画家の配置に先立ち市町村に対し建築の助言をすること、アルガン礁、オワゾ島、レイル三角洲、レージュの沿岸牧場の自然保護区(réserve naturelle)の創設。
- 土地対策：自然保護の目的で土地整備・都市計画国家基金(Fonds National d'Aménagement Foncier et d'Urbanisme:F.N.A.F.U.)の名義で約500haの地域が獲得された。その後、これらの土地の大部分は、沿岸地域保全機関(Conservatoire du Littoral)により買い取られた。当機関は、さらに、湾周辺の470haを自然環境の保護のために買収した。

第二の目的は次のように言い換えられる。

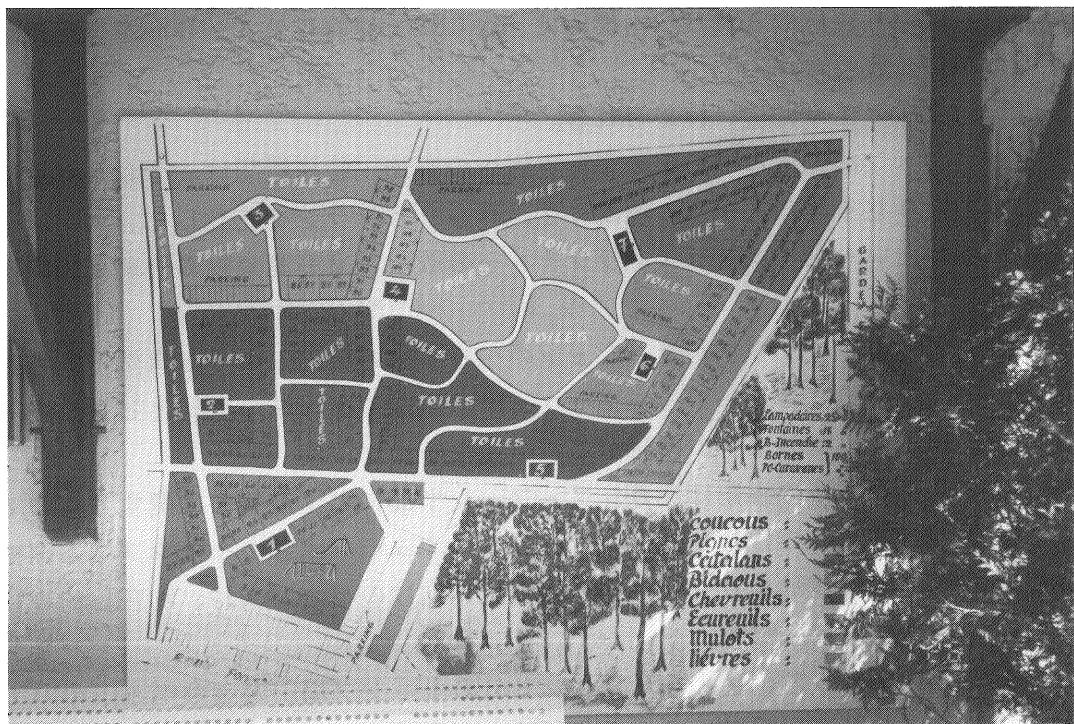
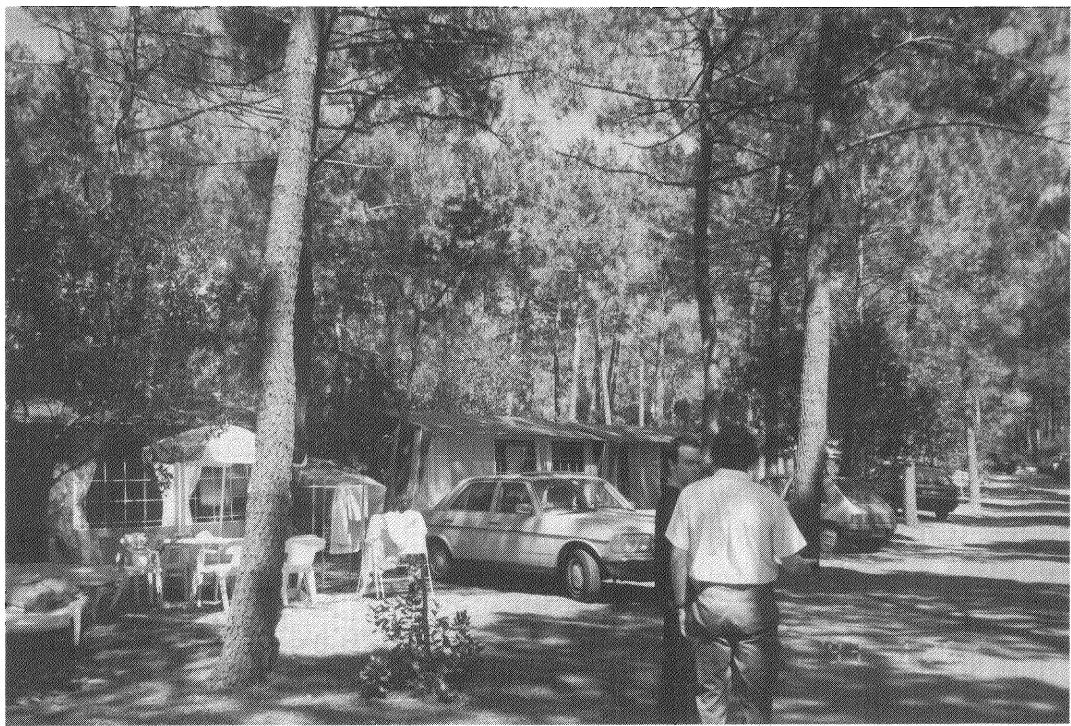
- アルカッショングの下水道計画の事業実施への参加：特務機関は、100km近くに渡って湾を取り巻く幹線下水道の設置に2,000万フランを充当した。
- 道路・港湾といったインフラストラクチャーの改良、家庭廃棄物の処理工場の建設への援助。
- テイクの鳥類自然公園やアルカッショングのペレイール公園のような自然空間の整備。

最後に、第三の目的は、レージュクラウェイの協議整備区域の実施とピレランーアールアンデウルノの整備単位の検討がこれに当たる。

レージュクラウェイの事業は、カップ・フェレ半島における整備に関するものである。この整備は、42haの協議整備区域に広がるコミューン直営のキャンプ場と連携した5,000ベッドの宿泊施設センター、大衆観光向けのバカンス村、別荘目的の住宅施設群、スポーツ施設よりなる。

5,000ベッドのうち、2,500ベッド分のキャンプ場、850ベッドのバカンス村は完了し、また別荘目的の住宅施設群（総床面積20,000m²、1,500ベッドうち850ベッドは整備済み）、協議整備区域の一部を成すスポーツ施設は、ジロンド県とレージュのコミューンが財源の50%ずつを負担する混成事務組合により施工されている。

（※アルカッショングについてはP53(3)伝統的沿岸観光地の高価値化 参照）



写真：カップ・フェレ半島の整備主要単位4内のル・トゥリュック・ヴェールのキャンプ場（写真上）とその見取り図（写真下）



写真：カイヨボチ。海浜への通路を限定し、海浜地域の自然保護を図ると同時にアクセスを容易にするための施設。（カップ・フェレ半島の整備主要単位4内のル・トゥリュック・ヴェールにて）

整備主要単位7：ビスカロス、サンギネ（巻末地図3）

ビスカロスの沿岸地域では、現在までに、特務機関の技術的、財政的援助により1,000ベッドの収容力を持つコミューン直営のキャンプ場が整備されている。面積60haの町有の土地の売却を予定した事業の整備計画は、近く完成する予定である。すなわち、

- 集合あるいは一戸建て住宅のまとまりからなる5,000ベッド規模の観光客用宿泊施設。
- 大西洋岸の海水浴場への観光客の来訪に備えた公共施設の整備。
- ショッピング・センターの整備。
- スポーツ、遊戯、レジャー用の各施設の整備。

また、伝統的沿岸観光拠点の高価値化の計画は、1987年以来取り組まれている。
(※(3) 伝統的沿岸観光地の高価値化、ビスカロスの部分P55参照)

カゾーサンギネ沼の東岸に位置するサンギネに関して、取り組まれた整備は次のようなものである。

- 1,750ベッドの収容力を持つコミューン直営のキャンプ場（ブルスタリックキャンプ場）の整備。ここは沼の北岸からやや離れた所に植林した面積40haの町有地であり、うち16haがキャンプ場に利用されている。この整備は、約10haの遊休地にレジャー用の簡易な宿泊施設群を建築することで充実強化される予定である。第一次の基盤整備事業が既に進行中である。
- 沼の岸よりやや離れたところにある750ベッドの収容力を持つ町営のキャンプ場の改修、拡張、再整備。
- 水上スポーツ場や海水浴場の利用に関連するヨットクラブ、駐車場、公共のシャワーなどの公共の施設の整備。

整備主要単位8：ミミザン（巻末地図4参照）

ミミザンは、古くから伝統的沿岸観光拠点の1つであり、既存の観光資源の改修が行われており、1987年以降は伝統的沿岸観光拠点の高価値化の計画による整備が導入されている。（※（3）伝統的沿岸観光地の高価値化、ミミザンの部分P55参照）

整備基本単位9：4) のケース・スタディP27参照

(3) 伝統的沿岸観光地の高価値化

伝統的沿岸観光地の高価値化の政策は、1982年12月20日と1983年7月27日の国土整備省庁間委員会により、国家レベルで決定された。この事業計画は、第9次の国と各州間の大部分の計画契約の中に明記された。

この事業計画は、次の3つのカテゴリーに分けることができる。

- 観光客と観光業者のための公共サービスを組織化し、発展させ、もって観光拠点の全体的な運営を改善し、みやげ物の開発を可能にすること。
- 生活環境と既存の施設の改善、ことに公共空間の改善。（具体的には、観光上の主要道路への歩道の設置、広場等公共空間の整備など。）
- 大衆向けの賃貸宿泊施設の開発、より具体的には観光客向けの家具付きアパート、余暇用の簡易住宅の開発。

アキテーヌ州においては、次の6つの観光拠点が対象となった。

- ジロンド県においては、スラックとアルカッシュン
- ランド県においては、ビスカロスとミミザン
- ピレネ・アトランティック県においては、ビアリッツとサン・ジャン・ドゥ・リュズ
なお、対象箇所決定の承認は、県レベルでは1987年3月27日（ジロンド県）、
1987年3月31日（ランド県）、1987年4月3日（ピレネ・アトランティック
県）のそれぞれの県議会、州レベルでは1987年7月24日の州議会、国レベルでは
1987年10月5日当政策を担当する特務機関委員会でなされた。

このプログラムの経費は、ジロンド県、ランド県の4つの観光拠点に対しは税抜きで800万フランを上限とされ、バスク沿岸地域の2つの観光拠点に対しは1,400万フランを上限とされた。各プログラムへの財政支援は、特務機関が200万フラン、州が200万フラン、県は100万フランに定められた。さらにバスク沿岸地域のビアリッツ、サン・ジャン・ドゥ・リュズについては、それぞれ300万フランずつ、欧州共同体（現欧洲連合）の沿岸地域統合プログラム(*Programmes intégrés méditerranéens: P.I.M*)の予算を活用することができた。

スラック

主要な事業は次のようなものである。

- 観光・ワイン案内所の設置及び所長の採用による観光拠点の運営体制の強化。
- 観光拠点の主要道路における歩道の再整備、近隣の公共空間（役場前広場、市場広場-place de Marché-）の再整備。
- 観光目的の家具付き宿泊施設の改修。

アルカッショ n

事業は次のようなものが中心となった。

- 観光情報の提供とレジャー活動サービスの分野における観光運営の改善。
- 市街地の主要道路への歩道設置、レジャー用港の全面的な改修、「冬の街」(la ville d'hiver ※注1)」の中にあるモーレスク公園の改修と拡張の3つの事業。（これらは、観光客及び市民の生活環境をより良いものとした。）
- 「冬の街」の中の家具付きアパートの改修事業
- 既存のテニス関連施設の補修

※注1 アルカッショ nの市街地は、大きく2つに分けられる。1つはアルカッショ n湾沿いの商店街を含む地区、もう1つは丘陵地に広がる「冬の街」と呼ばれる主として住宅街、別荘地（ボルドー在住者の所有のものが多い）である。



写真：アルカッショ nの「冬の街」の丘より、海沿いの商店街を臨む。

ビスカロス

事業計画は次のようなものを含む。

- 観光事業の運営に関して、市場調査、既存の観光関連の組織の強化。
- 公共空間の整備に関する2つの事業：ビスカロス市街地内の南ラテコエール地域、ビスカロス沿岸部の海沿いの小教会堂広場-place de la chapelle-の周辺整備。
- レジャー用簡易住宅の事業。
- スポーツ及び水上スポーツ関連施設の改修。

ミミザン

次のような事業が計画された。

- 観光拠点の宣伝とレジャー提供サービスを担当する特別な組織を設置すること。
- 生活環境の改善。すなわち主要な道路への歩道の設置、海岸部及び海水浴場への進入歩道の整備。
- 観光客用家具付きアパートに関する調査。
- サイクリング道路、海上休憩所及び小型機用滑走路の改修。

ビアリッツ

事業計画は次のようなものを含んでいる。

- 既存の観光運営体制の拡充強化：観光案内板、観光情報の提供装置、コンピュータ化、市場調査。
- 屋内テニス場の設置、海洋博物館の改修、レジャー・センター及び乗馬センターの拡張。
- 国際ホテル業専門学校の創設のための準備作業。



写真：ビアリッツ

サン・ジャン・ドゥ・リュズ

事業計画は次のように予定されている。

- 観光運営に関するもの：観光拠点の責任者の採用、観光宣伝とレジャー活動サービスの強化。
- 観光施設「ペルゴラ」内の海洋療法（タラソテラピー）センターの建設に関連した公共空間の整備。
- 4つの施設改修事業：水上スポーツセンター、海洋センター、屋内テニスコート、美術館の改修。